

## 令和6年8月27日開催 定例美祢市教育委員会会議録

**開催日時** 令和6年8月27日（火）午後1時50分から午後3時30分

**開催会場** 美祢市役所3階「301会議室」

<b>出席者</b>	南 順子	教育長	
<b>出席委員</b>	金子 明美	教育長職務代理者	
	山本 亜由美	委員	
	松本 孝志	委員	
	井上 敏雄	委員	4人
<b>欠席委員</b>			なし

<b>出席教育委員会事務局職員</b>	千々松雅幸	事務局長	
	岡崎 輝義	〃 教育総務課長	
	中島 幹晃	〃 学校教育課長	
	野村 一守	〃 生涯学習スポーツ推進課長	
	神田 高宏	〃 文化財保護課長及び世界ジオパーク推進課長	
	渡壁 誠	〃 学校教育課主幹	
	野尻登志枝	〃 生涯学習スポーツ推進課地域活動推進班長	
	倉増 裕	〃 教育総務課総務班長	8人

（午後1時50分）

### 1 開会

**事務局長 千々松 雅幸**

それでは、皆さんこんにちは。

ただいまより、令和6年8月の定例教育委員会会議を開催いたします。

これよりの進行は教育長よろしくお願いいたします。

### 教育長挨拶

**教育長 南 順子**

あらためまして、皆様、こんにちは。

8月の後半になっても、連日猛暑が続いています。

そのような中、焼け付くような太陽の日差しに負けることもなく、見事に咲いているピンクや白色の百日紅の花がひとときわ目につきます。その強い生命力に感動すると共に、与えられた場所で懸命に咲き続ける姿に、人としてのありようや生き方を教えられているようで、自分も頑張らねばと元気づけられている今日この頃でございます。

さて、本日も大変お暑い中、8月の定例教育委員会会議にお集まりをいただきまして、ありがとうございます。

気温が体温より高いという、これまで経験したことのない猛烈な暑さの夏休みが終わり、昨日から美祢市は、二学期が始まりました。

命に係わる大きな事故やケガもなく、無事1,071名の子ども達が、二学期を迎えることができたのを、何よりも喜びたいと思います。

ただ、命の危険を感じる暑さの中で学校生活が始まりましたので、一人一人の子ども達の体調管理には、全教職員が一丸となって気をつけ、こまめな水分補給等で、熱中症にかからないよう対策を十分すること等、学校にも指示をしているところです。

また、徒歩で下校する子供たちには、安全面には配慮しながら、日傘の使用を積極的に進める等、自分の命は自分で守るためにどう行動することが望ましいのか、それぞれの状況に応じて柔軟に対応するよう、学校・保護者・地域とも連携協力しながら、努めていきたいと思います。

2学期の開始と同時に、美祢市学校給食センターが本格的に供用開始となり、美祢市の学校給食の新たな歴史がスタートしました。

教育委員の皆様方にも竣工式に御出席をいただき、また、試食会にも御参加をいただきまして、誠にありがとうございました。

後程、御感想などお聞きできればと思いますので、よろしく願いいたします。

新しい事業のスタートには、様々な課題がつきものですが、子ども達に安心安全な美祢市ならではの美味しい学校給食が提供できますようお互いに連携協力し、それぞれの立場の違いを乗り越えてがんばっていきたくと思います。

また、教育委員の皆様の方にも、いろいろ情報が入りましたら、どうぞ遠慮なく教育委員会にお知らせいただけたらと思います。

一つ一つの小さな事案に丁寧に対応し、その都度最善の対策をとることで、それぞれの事業が着実に前進できるよう努めてまいりたいと思います。今後とも御支援・御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは、以後、着座にて進行させていただきます。

## 2 署名委員

### 教育長 南 順子

それでは初めに、署名委員の指名をさせていただきます。

本会議につきましては、山本委員と井上委員をお願いいたします。

## <両名了承>

### 3 前回会議録の承認

#### 教育長 南 順子

前回会議録の承認につきましては金子委員と山本委員をお願いいたします。  
よろしいでしょうか。

## <両名了承>

### 4 教育長報告

#### (1)行事関係

#### 教育長 南 順子

次に、行事関係についての報告をいたします。

お手元の資料を御覧くださいませ。主なことのみ報告させていただきます。

8月2日に、ウェルビーイングな学校づくりの第一人者である埼玉県上尾市立上平小学校の中島晴美校長先生をお招きし、教職員研修を行いました。

中島校長先生は、学校のウェルビーイングを実現することで、学校が笑顔いっぱい誰かが安心して学び、教職員も子ども達も自分の力をのびのびと発揮できる場所であってほしい。そうすることによって、学校現場が抱える様々な課題を少しでも改善の方向に導き、教職の本当の魅力を再現したい。また、保護者や地域にもウェルビーイングの考え方が広がり、多くの人々が人として幸せな人生を歩んでほしいという強い信念のもと、ウェルビーイングに関する学術的な知見を学校現場で共有し、実践をされることで素晴らしい成果をあげていらっしゃいます。

渡壁主幹が感想をまとめてくれましたが、ほとんどの教職員が「大変役に立つ内容だった。まあまあ役に立つ内容だった。」と答えてくれていました。

感想をひとつ紹介します。「明日からの活力をいただけた講演でした。「ウェルビーイングな学校」をつくられた校長先生御自身からも「幸せオーラ」を感じることができました。子ども・教職員みんなが幸せを実感できる「心理的安全性」の高い教室、職員室、学校を造っていきたい」と強く思いました。学校に関わるもの一人一人の「やってみよう」「ありがとう」「なんとかなる」「あなたらしく」の思いを高めていきたいと思えます。」等大変前向きな感想が多かったです。

中島校長先生は、学校のウェルビーイングが高まると、学力も向上すると仰っています。幸せな先生のもとで幸せになる力をもった子どもが育つという中島

校長先生のお言葉をしっかり胸に刻み、全ての美祢市内の先生方が「笑顔で・姿勢よく・前向きな言葉遣い」で、子供たちにはもちろん、誰にでも接することができるようになると、学校が変わってくると思いますし、それを期待しています。

8月4日、美祢山梨子ども交流事業で、美祢市の子ども達25名、ジュニアリーダー8名、研修部3名、実行委員3名、養護教諭1名、事務局2名、総勢42名で、山梨市に行き、山梨市内の子ども達と交流を深めました。

後程、担当からくわしく報告があると思いますが、私もこの事業の実行委員長ですので、前日と初日のみ、一泊二日ほど参加をしました。

教育長の立場になって最も大切にしているのは、現場主義です。まず、自分が現場に赴き、自分の目で、しっかりと現場の実情を見て、理解をすることを大切にしたいと考え、行動してきました。もちろん、信頼できる人の意見にもしっかり耳を傾け視野を広くすることも心がけています。

平成14年から続いているこの事業を今後どのように展開していくことが、事業の目的の達成につながるのか、また、両市の子ども達にとって価値ある体験になるのか等、美祢市だけの課題ではなく、相手がありますので、山梨市ともしっかり情報交換をしながら進めなくてはなりません。そのためにも、スケジュール的には非常にハードでしたが、山梨市に行くことを決意しました。事務局には、別行動のため、切符の手配等いろいろご迷惑をかけてしまいましたが、今回山梨市に行って、山梨市の教育長である嶋崎教育長様とお会いできたのは、とてもよかったです。

十分な話し合いには至っていませんが、今後、関係者でしっかり協議を深めながら、最適解を見つけていけたらと考えています。

以上が行事関係の報告です。

## **教育長 南 順子**

その他ですが、何か御質問等があれば、お伺いしたいと思います。

また、学校給食センターのことについて、アンケートをとっておりませんので、ぜひ教育委員の皆様方から、給食の試食会等も含めて、お気づき感想等があればお伺いできればと思います。

何かございませんでしょうか。

はい、金子委員お願いします。

## **教育長職務代理者 金子 明美**

試食会に参加させていただいて、先ず、ありがとうございました。

調理員さん達が作っておられる姿も見ることができました。

そして、当日は重安の地域の方もたくさんみえておられました。

所長さんのお話では、地域のほうにいろいろと御迷惑をかけたので、是非、試食会にということで声をかけたというふうにおっしゃってました。

一緒に給食を頂いたんですが、その場で「質問はありませんか」という声かけがありまして、当地域の方からも幾つか質問が出ておりました。

とても地域の方が理解をするというか、給食を知るいい機会だったなというふうに思いました。

まず、地域の方を呼ばれたということがよかったなというふうに思いました。とてもおいしい給食でございました。

先ほど言われたように私たちも頂いて、こういうふうになるんだなっていうことをしっかり、噛み締めることができました。

先ほど言ったように、アンケート、その場で、教育委員もそうですが、地域の方も声を出された方もいらっしゃったんですけども、思っておられてもなかなか声が出なかった方もいらっしゃったと思うんですね。

だから、アンケートがあると、いろんな声を踏襲することができたかなというふうなことを思いました。

それが1点です。

それと、2点目は、今月の「元気みね。」に給食センターのことが載っていて、出てるなというふうに見ていました。

文字で、そして写真で、地域の方、美祢市民の方に、新しい取組について紹介するいい機会だったなというふうに思います。

同時に、映像でこれから少し落ちつかれてからだと思うんですけども、実際に調理をしている様子等を映像で捉えながら、子供たちのために調理員さんたちが本当に頑張っておられる姿を、MYT等で流すことによって、多くの方の目に留まって、こんなふうに使われてるんだなっていう安心感につながっていくのではないかなあというふうなことを思いました。

以上でございます。

#### **教育長 南 順子**

貴重なお気づきありがとうございました。MYTの映像ということについては、事務局の方どうですか。

#### **教育総務課長 岡崎 輝義**

ありがとうございます。

今考えているのが、映像につきましては実際に今動いているところで、DVDを作成してこの度試食していただいたレクチャールームで見学に来た方にお見せできたらなと考えています。

以上です。

#### **教育長職務代理者 金子 明美**

はい、ありがとうございました。

### **教育総務課長 岡崎 輝義**

MYTについては、試食の時に配送の風景もとられていたので、また別に特集で流れるかもしれません。

### **教育長 南 順子**

ぜひ本当に美祢市民の方にもそうですし、またこどもたちもさっき御意見を頂きましたように、センター給食となると、実際に自分の学校でということが難しいので、こういうふう頑張って作ってくださっているのだという感謝の気持ちを育むためにもぜひ取り組んでいけたらと思います。

他にぜひ教育委員の皆様方、新しい歴史が始まりましたので御意見を頂けるうれしいです。

井上委員、お願いいたします。

### **委員 井上 敏雄**

私も金子委員と一緒に試食会に参加させてもらったんですけども、おおむね金子委員がほとんどおっしゃったんですが、あの場所で食べるっていうのがやっぱり非常に意義が大きくてですね、ああいうのをPTAというか保護者の方にも、少し機会があれば、学校でこどもたちと多分違った場所で、食べるのは何か違うと思いますので、給食センターのほうにちょっと御迷惑かかるかもしれませんが、そういうお話を各PTA、保護者とするとまた面白いのかなという感じはちょっとしました。

### **教育長 南 順子**

ありがとうございました。

またぜひ考えていけたらと思います。

他にももしよろしかったら、いいですか。

松本委員にお願いいたします。

### **委員 松本 孝志**

参加できずごめんなさい。

立派な施設で、これからスムーズにいけばいいなというふうに思っております。

### **教育長 南 順子**

大変失礼いたしました。

今給食センターのことについて、いろいろ御感想お気づきを頂いておりますがもし何かありましたらお願いします。

**委員 山本 亜由美**

学級P活とかで、この給食センターの見学等で親子での試食会、それこそ今おっしゃったように、それができたらいいなというふうに思ってたんですけど、今後、そういうことができるのであれば、学校に通達してほしいなと思います。

**教育長 南 順子**

いいですか。

**教育総務課長 岡崎 輝義**

今考えているのが、レクチャールームでの試食会はもちろん考えております。今は、まだ稼働したばかりなので落ちついたら、そういったことができればと思っております。  
以上です。

**教育長 南 順子**

いろいろ貴重な御意見ありがとうございました。  
それでは他に御意見、御質問、いろいろな行事関係ほかでも結構でございますがありましたらお願いいたします。  
はい、どうぞ。

**委員 山本 亜由美**

地域の方がこの学校給食を食べたいという希望があった場合は、何かお金を出したら食べれるとか、そういうふうなことって計画あたりしますか。

**教育総務課長 岡崎 輝義**

ただいまの御質問ですけども、そういう計画は同じように保護者の方もそうですし、市民の皆様に対しても、そういったところがあればと考えてます。

**5 報告・議案**

**教育長 南 順子**

よろしいでしょうか。  
それでは次の議案のほうに移らせていただいてよろしゅうございますでしょうか。  
では初めに報告のほうから参りたいと思います。  
報告第19号、美祢市夢をつなぐ特別支援教育サポートチーム委員の委嘱及び解嘱について、学校教育課お願いいたします。  
中島課長、お願いします。

### **学校教育課長 中島 幹晃**

美祢市夢をつなぐ特別支援教育サポートチームは、教育、福祉、医療、心理等の専門的立場から、未就学児、児童生徒、保護者、教職員等への適切な指導や助言をし、美祢市教育支援委員会へつなぐ等の就学に向けた適切な支援を行うことを目的とし、設置をしている組織でございます。

この度、人事異動に伴い、委員の委嘱及び解嘱について、美祢市教育長に対する事務委任規則の規定により臨時代理いたしましたので、教育委員会に報告するものです。

なお、委員の任期は令和7年3月31日までとするものです。

以上です。

### **教育長 南 順子**

ただいまの報告につきまして質疑等があれば承りたいと思います。

よろしいでしょうか。

それではないようですので続いて議案の審議に入りたいと思います。

議案第60号、美祢市教育委員会公印取扱規則の一部改正について、教育総務課お願いします。

岡崎課長。

### **教育総務課長 岡崎 輝義**

議案書は2ページ、資料は3ページになります。

この度の改正は、8月25日から美祢市学校給食センターが条例により設置されることから、美祢市学校給食センター所長印を公印取扱規則に追加する一方、学校給食共同調理場所長印の個数を6から2に変更するとともに、学校印及び学校長印の個数を、17から16に変更するものです。

なお、この規則は公布の日から施行するものです。

説明は以上です。

### **教育長 南 順子**

議案第60号につきまして、質疑等があれば承りたいと思います。

それでは特にないようですので、議案第60号の質疑は終了させていただきます。

お諮りします。

議案第60号、美祢市教育委員会公印取扱規則の一部改正について、御説明のとおり承認頂けますでしょうか。

御承認頂けます方は挙手をお願いいたします。

### **【全員挙手】**

### **教育長 南 順子**

ありがとうございます。

全員賛成ということで承認されました。

続きまして議案第61号、美祢市立小・中学校の通学区域に関する規則の一部改正について、学校教育課お願いいたします。

中島課長。

### **学校教育課長 中島 幹晃**

はい、失礼いたします。

議案は、3、4ページ、資料は4ページになります。

令和7年4月1日、美東地域小学校が小学校再編に伴い、美祢市立大田小学校と綾木小学校、淳美小学校の通学区域を、美東小学校通学区域へ変更するものでございます。

以上です。

### **教育長 南 順子**

では議案第61号について質疑等があれば承りたいと思います。

特にないようですので議案第61号の質疑は終了させていただきます。

お諮りいたします。

議案第61号、美祢市立小・中学校の通学区域に関する規則の一部改正について、説明のとおり御承認頂けますでしょうか。

御承認頂けます方は挙手をお願いします。

### **<全員挙手>**

### **教育長 南 順子**

ありがとうございます。

全員賛成ということで承認されました。

それでは議案第62号美祢市社会教育委員の委嘱について、生涯学習スポーツ推進課、お願いいたします。

野村課長。

### **生涯学習スポーツ推進課長 野村 一守**

議案は、5ページ6ページ、資料は同じく5ページ6ページでございます。

社会教育委員は、社会教育法に基づき、市が置くことができる委員であり、職務としては、社会教育に関し教育委員会に助言することとされています。

現社会教育委員の任期が令和6年8月31日で任期満了となるため、次期委員

の委嘱について、教育委員会の承認を求めるものでございます。

なお、委員の任期につきましては、条例第3条の規定により、令和6年9月1日から令和8年8月31日までとするものでございます。

以上です。

### **教育長 南 順子**

では議案第62号について質疑等があれば承りたいと思います。

特にないようですので、議案第62号の質疑は終了させていただきます。

お諮りいたします。

議案第62号、美祢市社会教育委員の委嘱について、説明のとおり御承認頂けますでしょうか。

御承認頂けます方は挙手をお願いいたします。

### **【全委員挙手】**

## **6 協議報告等**

### **教育長 南 順子**

ありがとうございます。

全員賛成ということで承認されました。

それでは続いて協議報告に移ります。

教育総務課のほうはございませんので、学校教育課のほうからお願いいたします。

中島課長。

### **学校教育課長 中島 幹晃**

はい、失礼いたします。

学校の様子について、1学期の不登校の様子について御報告をさせていただきます。

年間30日以上欠席児童生徒、病気や経済的な理由にもよるものは除くということで不登校の数字を挙げております。

上の小さい2つの表につきましては、上の表が実数、比較するために、千人当たりの出現率に換算したものが下の数字でございます。

令和6年度の数字については、1学期が終わって、もう既に30日以上欠席の児童生徒数です。

今のところ、小学校については、昨年並みになりそうな数字になっております。

中学校については、昨年よりも、少ない数字には抑えられている状況ですが、令和4年、5年が美祢市にとっては非常に高い数字でございましたので、なる

べく未然防止、というところを取り組んでいけたらと思っております。

1学期に少し新たな動きといたしまして、旧川東小学校にございます心の広場に相談員が2名ほど交代で勤務をしていますが、唯一、2人が同日勤務をする、木曜日、1人は、心の広場に通ってくるこどもへの対応、もう1人の相談員が出張して、不登校児童生徒の最寄りの公民館にアウトリーチ型ということで、相談活動を始めました。

今現在、美東中学校区の公民館で1名、生徒を対象として、週に1回アウトリーチ型の支援をして、保護者の方も非常に好評な感想を頂いていますし、こどもも継続して参加してくれている状況です。

こういったこともどんどんチャレンジして、不登校児童生徒の対応はもちろんですが、未然防止を学校全体挙げて取り組んでいきたいと思っています。

出現率に換算しての、県内比較も、参考に載せております。

やはりコロナ禍の令和2年度以降、令和3年、令和4年度と、目に見えて、全県的に、不登校の児童生徒数が増えている様子というのが見てとれると思っております。

これをコロナ前の数字に早く、持っていきたいと思っていますし、美祢市においては、そういう兆しが見えてきていると捉えておるところでございます。

この資料についての説明は以上でございます。

## 教育長 南 順子

何か御質問あるいは御意見等がありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

御感想でも結構でございます。

本当に不登校問題というのはそれぞれ一人一人のお子さんによっていろいろ状況は違いますが、できれば少しでも学校に足が向くように、そのために、学校がまず変わらなくてはということで、ウェルビーイングな学校づくりも実はそこにつながってるんですが、是非こどもたちが学校楽しいと感じて、1人でも多くのこどもたちが、学校に行きたい。そしてまた学校でも安心して、自分の居場所がある。そういう学校をつくる。

そのために、今年度はぜひ不登校ゼロ、いじめゼロにして頑張っていきたいと思いますと呼びかけております。

各学校も頑張ってくれておりますし、今、課長が申しましたけれども、心の広場等で本当にこのこどもの必要とする支援に寄り添った対応をしているところではあります。

今まで全然学校のほうに足が向かなかったこどもたちが、公民館ならということで、今、足を向けて、支援員の先生と過ごしているというそういう改善の事例が一つあるということです。

まだまだこれ本当に考えていかなきゃいけない大きな課題でございますが、教育委員の皆様方から何か、是非、こういうことに取り組んでみてはどうかと

か、御意見等がありましたらお願いできたらと思います。

また後でも結構でございますので、次のこれも大変危機的な学力のことについて報告をいたしました皆さんの御意見を頂けたらと思います。

学校教育課中嶋課長、お願いいたします。

### 学校教育課長 中島 幹晃

引き続きまして2といたしまして全国学力学習状況調査の正式な数値が出たことの報告と今後どのような学力向上、授業改善の取組を進めていくかということについて御報告をいたします。

まず数値が美祢市、上が小学校、真ん中山口県、全国、それから県平均との差を正答率でどれぐらいのパーセント取れてるかという県平均との差。

下の表が中学校、同じように表としてまとめております。

御覧頂きまして小学校のほうが国語算数とも、正答率が県平均よりも、10ポイント、離れているというようなことで、県平均よりも、若干低いというような年等はございましたし、10ポイント、近く低いというような年も今まであったのですが、その中でも、このたびは非常に結果としては思わしくない結果であるというふうに認識しております。

中学校のほうは、国語についてはプラス1ポイント、県平均や全国平均よりも上がっておりますけれども、逆に数学のほうで6ポイント、明らかに低いという状況にございました。

国語と数学でいえば7ほどあるわけですが、同じ子どもたちが国語と数学でこのような差が起きているということについては課題であるというふうに捉えています。

今、申し上げたところが大きい一番の現状と課題のところに載せているところでございます。

①については小学校のことから、②につきましては質問紙調査で、小学校は国語科に関しての苦手意識、あるいは自己有用感の低さが質問紙調査というのでも同時にあるんですが、そちらのほうからも明らかになっているということ。

それから、④にございます。中学校における数学への苦手意識、それから、学力に直接的な因果関係は無いのかもしれませんが、いじめに関する意識というのが県平均よりも10ポイント、11ポイントほど下回っているという状況もございました。

やはり5番にございますように、小・中学校の数学全体としてやっぱり正答率が低かった、あるいは自己有用感の低さ等、国語に対する苦手意識のようところが調査のほうにも影響を及ぼしているのではないかというふうに分析しておるところでございます。

2番に、5月以降どのような市教委が対策を打ってきたのか、5月に状況分析をして、6月の招集校長会で、状況を校長と共有して、課題意識と今後の改善方針の共有をいたしました。

市全体の状況、それから各学校の状況を数値データで県平均と比較しながら、共有する。

あるいは、児童生徒の分布状況をグラフで示して一人一人に支援体制を構築するように依頼をしております。

それから、一番大事な授業改善、あるいは課題を課題のままにしない学び直しの全校体制による取組を実施するようというので、今、夏休み中の7月に担当指導主事が各学校を回り、具体的にどのような取組を学校がされようとしているのか、市教委がどのようなサポートをしていくのかということをも具体的な黒ポツの三つ目にありますが、10月に、早速確認問題がございますので、そこを利用して、どれぐらい数値目標を持って改善していくのかを一緒に統一歩調でと思っております。

3番、今後ですけれども、指導主事による伴走支援を管理職による各先生方への日常支援につなげていきたいというふうに思っています。

それから丸の二つ目にやっぱり小さい学校は、どうしても比較対象が少のうございますので、市教委のほうで経年変化あるいはこども一人一人がどういうふうに成長しているかをデータ分析したものを提供できるといいと思っております。

それから、この県、国の調査が小学校5年生以降しかないもので、やはり三つ目、低学年のときにちゃんとつまずきが起きてないか、こういうことは、低学年のうちに必ず身につけておきたいという基礎的スキル、後になって困らないように、定着を促進させていきたいと考えています。

中期的には、まず10月に小学校3、4年生、キュビナは、自動採点もできませんので、そういったもので3、4年生でのつまずきがないかを確認するような問題を市独自で無理のないやり方で行っていききたいと思います。

そこで早めの支援が打てるようにしていこうと思っております。

先ほどありましたようなキュビナをもっと有効活用できないかということも、研修等を進めていく。

中期的にそのようなことを考えています。

最後長期的には、やはり一番大事な授業改善、若い先生方がどんどん増えています。

大嶺小学校であれば年に2人ずつぐらい新採の先生が入られると、3年経てば全クラスの半分ぐらいは新採から3年目までの先生が担任をするというような状況になっていきますので、授業参観を指導主事もし、管理職と気づきを共有し、具体的に授業をつくることから支援に入っていく。

あるいは、教師の見取りの強化、特別支援の視点での支援、それから子どもたちがちゃんと定着しているのかという振り返りをちゃんと充実させていくということ、こういったことを含めた自由進度学習の質の向上で授業改善を図っていく。

最後に、学校外に何かこういう学力向上につながるような要素というものが

ないか。

学力を下げているような要素がないかといった学校以外の原因分析も進めて、幼保、幼稚園、保育園のうちから、学ぶ楽しさをどういうふうに育ていくのか、あるいは地域、保護者の方にこれから必要な学力が御理解いただけるか、今、盛んに学力熟議を行っていますので、家庭や地域がどのように、こどもたちに意欲を持たせていくのに支援していただけるのか。

そういったことを今後進めてまいりたい、協議のほうも進めてまいりたいというふうに思います。

### **教育長 南 順子**

はい、またお気づき等頂けたらと思います。よろしく願いいたします。

あと皆さん方の御意見は。ます。はい、お願いいたしますはい、ありがとうございます。

### **委員 松本 孝志**

最近私も全国学力学習状況調査というのはどういう内容になったのかとはっきりと分からないんですが、基礎的な内容とそれから特に思考力を要するような内容問題で今、分かれてるんですか、分かれてないですね。

今は一緒になってるんですね。

それで1番のところに、読み書き計算に関わる基礎的な知識技能の習得に課題が見られるというのは、もう完全に基本的な部分が定着してないこどもたちが多いということになるんですかね。

### **教育長 南 順子**

課長お願いします。

### **学校教育課長 中島 幹晃**

ありがとうございます。

課題の大きかった問題を具体的に印刷してお示ししているのですが、最初が小学校裏表で国語、算数です。

3枚目上が中学校国語で、下が中学校の数学で特に中学校の数学のこの基礎基本的な問題を、見ていただいたらこれをYについて解きなさいという、非常に基本的な問題ですけれども、こういう問題も中にはあります。

全てが応用の問題ではなく、こういう問題もあって、そこにマイナス22ポイント低いのがなかなか整理できないところがあるんですけども、こういった課題が見受けられるということです。

このあたりはちょっと、中学校なので、数学の先生だけではなくて、中学校全体あるいはその中学校の理系分野の先生、総動員でこういうふうな、問題がかなりのこどもたちが手こずっているっていう現実をどう改善していくのか

考えていけないといけないというふうに思います。

逆に、小学校の算数は、その前のページにあるのですが、問題としては、そんなに難しくないんです。

トラックに350キロ乗ると。2台だったら700キロ乗りますと。16台だったら、2台が700キロを基準に考えたら、8倍すれば答えが出るという理屈が分かるかな、それが答えられるかなという問題なんですけど、ただ、文字でこう書いてあるのを読みといていく中で、諦めてしまったり脱落してしまったり何を問われているのか分からなかったり、要するに先生が、横にいてヒントを出してくれれば解けるけど、自力で解決できないっていうような段階のお子さんが、いらっしやっただけかな。

マイナス24ポイント、こういう小学生については応用的なというか読み取りでいくところに、問題を持っているということでございます。

#### **委員 松本 孝志**

マイナス22.6とかいうのは、これは、どっかの平均と比べてですか。

#### **学校教育課長 中島 幹晃**

平均と比べてです。

#### **教育長 南 順子**

私もあまりにも悪いので、よっぽど問題は難しいかと思って、自分で全部解いてみましたが、普通であれば、平均60点台は、取れる問題なので、やっぱりとれないということはさっきありましたけど、読み解いていく、しっかりと読むという力、また、大事なところを整理して、どういうふうにこれを分析していくかっていうところで、まず教科書がすらすら読めているのだろうかと思っ先に思いました。

文章や言葉が体に染みついているのか、特に国語で、小学校ではちょっと長文の問題があったんですね。

それは結構ある程度読んで、自分の中で整理をしていかないと、何が何だか混乱してしまうという感じの文章、必要だったんですけどやっぱりそういうところ、しかし6年生であれば、しっかり読む力が読解、そして読み解く力がついていけば解ける内容なんですけど、だから本当に基礎的なところがですね、もう一遍よく、どこでつまづいているのか、一人一人の状況は違いますがやっぱりそこまで降りて着実に力をつけていかないとこの子供たちは、6年生が今度中学校に入っていくまた今度は高校という、これつながっていきますけれども、その段階でやっぱり分からないままに置いておくと、ますます分からないが増えてくるので、今、こどもたちのつまづきに、寄り添って着実に力をつけていく。

そして、またその力が定着するようにしていくことが必要じゃないかと考え

ているところです。

### 委員 松本 孝志

全く外れてるかもしれないんですけど、時々学校訪問で子どもたちがキュービナであるとか、いろんな画面上でドリルをやってる部分を見るんですけど、何か直感的なんですよ動きが。

考えて本当に考えてやっているのだろうかと思うような場面をたくさん見るんですけど、学校の中で例えばそのプリントって問題をやらせるときに、本当に考えないと整理しないとできないようなものを与えているのかなという。

だから、どっちかちょっと物事をすごく単純化してやってるような印象が、実はあって、本当に考えているんだらうかとか、たまたまそれであったとか、感じとしてこういう雰囲気計算ドリルしたらできたとかいうような、印象を受けるんですけど違うかもしれません。

物事を授業の中で本当にじっくり落ちついて考えてこうなって論理的に考えてこうなりましたというような、授業、思考を伴うような授業が、どうなんだらうかなあと。

そうでないと考える力とかですね、文章を本当に正確に理解することも難しいかなあとというふうな印象を受けたんですが、全くずれてるかもしれませんけどそういうふうな思いはちょっと感じています。

### 学校教育課長 中島 幹晃

ありがとうございます。

まず全くおっしゃるとおりで、指導主事が見て身になっているっていうお子さんと、もう本当に機械的にゲーム感覚で、すぐマルバツの答えを出してくれるので、考えずにどんどん答え合わせをしていっている。

これは、そのこの子どもたちの学習状況を見取る力、キュービナは、実は後からキュービナマネジャーっていう、先生が見たら、子どもたちがどういう問題で、間違えているとか、間違いがどれぐらい続いているとか、ランダムに、適当にやっているかが後で見れる。

しかし、直接やっぱり見て、子どもたちの状況を導いていけるような、やってるからといって安心せずに、子どもを見取る力が大切というふうに思っています。

ですから、そういうふうな、キュービナにはたくさんいいところもあるんだけどもそういう使い方をしてると、何かあたかも学んでいるように見えてしまうというようなことも、我々共通理解していかないといけないに思っています。

一番、松本委員さんがおっしゃった考えるという場面ですよ、そういった場面を、その考えをちゃんとアウトプットして、対話を通して練り上げるっていうような、そういう場面、それをもう1回今日の学びとして振り返りで落と

し込んでいくってというような、そういったところがないと、そのとき分かったつもりでも、1か月たつと定着してないので、実際に1人でこういうペーパーテストに向かうときにはできないというようなことになっているのではないかなと我々も見ていますので、そういった視点での授業改善や見取る力をつけていくところは、実際の現場には指導主事も入りながら、それから管理職にそこを伝えて日常的に管理職からも指導してもらおうというふうに回していこうと思っています。

### **教育長 南 順子**

金子委員。

### **教育長職務代理者 金子 明美**

中学生の正答率が低かった計算問題なんですけども、やはりノートにきちんと書いて問題を解くということと、それから分かっていない子のやっぱりチェックというか、分かってない子をピックアップして、その子に対してやはり、再度教えるというかそういうことをしていく。

やはり、理解力は本当に差があると思うんですけども、その辺りでしっかりできてない子をピックアップしていかないと、なかなか全体の正答率っていうのは上がっていかないんじゃないかと思うんです。

それとやはり、計算だけではないかもしれないんですけども、やはりそれをやって、次の時間にその辺の定着の問題を1問でも出してきちんとそれができてるかできてないかっていうあたり、理解度をチェックしていく。

そしてできてなかったらそこにやはり返っていかないと、かえってまた文字の狙いに迫っていかないとなかなか新しい段階には進めないんじゃないかなあと思うんです。

その辺りのきめ細やかな見取りというか、それからノートチェック、それからやっぱり個別指導を本当先生方お忙しいと思うんですが、積み重ねていくってことが、力をつけていくことの一步ではないかなあと思いますそれとやはりできる子、分かっているこどもを分かってないこどもに、教えてあげる、教えるような場面というかそういうのも、一つの方法かなあか思います。

やはり計算で一番点が、言い方が悪いですが、点が稼げるところなんです。

だから、そこら辺はもう最低ラインとして、定着させてやりたいなあというふうな気がしています。

以上です。

### **教育長 南 順子**

分かりました。

はい、どうぞお願いいたします。

**委員 松本 孝志**

もう一つ教えてください。

学力検査の結果の数字は平均的なんですけど、これは、例えば分布として、分布が全体的に低めなのか、それとも二極化していてとか、その辺りで分かりますか。

**学校教育課長 中島 幹晃**

ありがとうございます。

全体的に低い、山がやっぱり全体的に低いで、以前は二極化のフタコブラクダというイメージで、この最初の低いほうの山をどう、真ん中のほうに持っていかみみたいなことだったんですけど、この度は、全体的に低くて、全くないわけじゃないですけども、上位層がない。全体的にぐっと低い集団を形成しているっていうのが特徴になります。

**委員 松本 孝志**

もう一つ、いじめに関する意識が低いというのは、中学校の、これは一番最後のあたりにある13と書いてある、数字のことですかね。

**学校教育課長 中島 幹晃**

そうです。

**委員 松本 孝志**

はい、分かりました。

**教育長 南 順子**

ほかに何か御意見お気づき等がありましたらぜひお願いできたらと思います。

はい、山本委員。

**委員 山本 亜由美**

お聞きしたいんですけど、昔はよく学校で朝に読書をしましょうって言って読書の時間があったと思うんですけど、今よく聞くのが朝からキュビナをやっているとか、プリントを解いてっていう時間が増えてると思うんですけど。

やっぱりこの読書に親しみ気づくことができるとかそれがポイントが下がってるんですけど、本を読む時間が学校でも減っているというのが関係あるのかなと思いました。

**学校教育課長 中島 幹晃**

ありがとうございます。

朝読書のように、集団で読書する時間、あるいは授業の中で、小学校、中学校はなかなか授業の中で読書の時間はないんですけど、小学校は、授業の中の読書の時間は、削られてないんですけど、つまり朝読書であるとか、そういったところは、若干削られている。

今までより削られているというふうには思っています。ただ、朝読書をすれば、学力が伸びるかっていうと、それはなかなかそうでもないんですけども、基本的に読書すればこの力がつくってという単純なものではないとは思っているのですが、やはり文章になれるとか、ある程度の量を最後まで意欲を持って読んでいくとかそういったところも、たくさん文字があるだけで、もう嫌になってしまって諦めてしまうというようなことについては、やっぱり読書をある程度習慣として持つておかないと、弱いところだと思いますので、その辺りも現場とよく協議していきたいというふうに思います。

ありがとうございます。

### **教育長 南 順子**

お願いいたします。

### **委員 井上 敏雄**

昔もそうだったんですけども、この結果を受けて分析をされていらっしゃると思うので、市内共通で行う事項と学校単位で対策を練るの大きく二つに分かれるとは思いますが、基本学習っていうのは質と量なんで、質イコール基礎力をしっかりとつけないと、つけてからいろんな問題をこなしていく量ですよね。

キュビナ等を使っていろんな問題を解いて発展した問題にも対応できるっていうのが理想の話なんですけども、その最初の基礎となるもう、解けるだろうという問題が解けない曖昧な状態で進んでいるんじゃないかなっていう気はちょっとします。

本来は各授業ごとに、ここまでのことがちゃんと理解できたか、個人的に個別によって違いますから、それを全部確認できればいいんですけどもなかなかそれが難しいですね。

だからミニテスト等を通してそういった基礎力がちゃんとできてるかってそこからキュビナ等を通して数をこなしていくということが大事なのかなと思います。

松本委員もおっしゃってたんですけども、問題数をどんどんこなしていく中で特にタブレットとかを使ってやっていると、ノートを使わない児童生徒がすごく多くて、やはりそのタブレットを使う授業とか学習においても、やっぱり片方にノートが絶対要るんですよね。

数学や算数に限らずですけども、ノートを取りながら、答えをタブレットという形に、それを癖付けしないと、高校入試、大学入試をタブレットで受けるわ

けじゃないですから、やはりその過程ですよ、その間の過程、考える力をやっぱりふだんから身につけていってもらえればいいかなと思います。

これは関係ないかもしれませんが、美祢市は特に、県内で低いつて言われたときに、ちょっと浮かんだのが競争力がこどもたちにあんまりないのかなっていうのをちょっと思いました。

あんまり競うという事に私は力入れてませんし、こどもたちもあんまり友達よりも点数をいっばいってというようなことは多分ないと思いますけど、結構都市部とかに行くと、塾に行ってるこどもの割合とかも高く、かなりそのクラス内でのなんていうんですかね、点数とりたいていうかそういった競争心のちょっと違いが、少しあるのかなと思ったんです。

ただ競争心をどんどん煽れと言うつもりもないんですけどもやっばその辺を、もう少し持ってもらえればまた違ってくるのかなっていうちょっと思いました。

以上です。

### **教育長 南 順子**

それぞれの委員の皆様方から貴重な御意見ありがとうございました。

またぜひ現場と共有しながら、本当に美祢市のこどもたちの学力が、一人一人に定着するように努めてまいりたいと思います。

また、いろいろお気づき等がありましたら、学校参観等もしていただいておりますので、こういうふうな場で共有してしっかりと取り組んでいけたらと思いますのでよろしくお願いいたします。

今の学校教育課のほうの学力学習状況調査全体的なことにつきましてよろしいでしょうか。

それでは次の生涯学習スポーツ推進課。

最初にm i n e t o こどもキャンプお願いいたします。

### **教育創生監 宇野 勇気**

m i n e t o こどもキャンプについて御報告を申し上げます。

今年で3年目になりまして、概要だけまずお伝えをすると、7月の下旬25日から4日間行いました。

参加児童が各小学校から25名、スタッフ大人が10名という形で家族旅行村にて実施をしました。

いろいろと申し上げるより映像を見ていただいたほうが早いかなと思います。8月の中旬にMYTで放送されたものになります。

全体で40分、これが前半で後半が今週中に放映予定です。

当然40分全部流すことはできないのですが、4日間のプログラムの中で、テーマがこどもたちの社会的自立ということで、当然自然に触れ合う経験は存分に行うんですが、こどもたちが自分たちのグループの中で決めた次に何をする

っていう大枠は決まっているんですが、市内の児童が今何をしてどういうふうにしていきたいってというのはグループの中で基本的に決めていくというプログラムになっています。

当然のことながら、集合した段階では一人一人のこどもたちの温度差というか、緊張して入れない子もいたりするんですけど4日間を通して、こちら委託しているエデュアクティベーターズという民間の企業の方を中心に、上手にファシリテーションしていただいて、4日間通して仲よくなっていくというものです。

このたき火もいわゆる火おこしの体験ではなくて、ライター、マッチが支給されるんですけどどうやったら火が続けて燃えるようになるかっていうのを工夫しながら、落ち葉を集めるだけで火が着くのかということと着かないので、限られたマッチの本数、限られたライターの残量で、どういうふうに誰が何をして時間内に火をつけられるかっていうのを話し合いながら、行うようなことがメインになります。

これは景清洞でのアドベンチャーコースに入って、ちょうど、水かさが多いタイミングだったので、奥まで行くことはできないんですが、こどもたちが安全な範囲で折り返して帰ってきたという状況になります。

はい、ちょっと時間が限られるので一旦以上になりますが、御質問お受けしたいと思います。

#### **教育長 南 順子**

何か御質問、御意見、感想等がありましたらお願いいたします。

#### **委員 井上 敏雄**

これは小学生だけ、中学生のキャンプは行ってないのでしょうか。

#### **教育創生監 宇野 勇気**

小学生だけです。

小学生の3から6年生で中学生に対してはキャンプ事業は行っていませんね。

#### **委員 井上 敏雄**

中学生でやるとまたちょっと面白いんでしょうね。

#### **教育創生監 宇野 勇気**

貴重な御意見ありがとうございます。

せっかくですので逆に御指名ですけど、山本委員さんのお子さんが参加されておうちに帰ってからの反応など、せっかくの機会ですので、お聞かせ頂けるとありがたいなと思います。

**委員 山本 亜由美**

うちは1回目から3回目まで誰かしら参加しているので。  
参加したのが2回目だったので慣れっ子になっている。  
何をやるかが分かって行ってるので何のときめきもなく。  
こんな感じかみたいなの。

**委員 井上 敏雄**

内容的には例年同じですか。

**教育創生監 宇野 勇気**

はい、例年同じようなプログラムを行っております。

**委員 山本 亜由美**

昨年よりは大分できることが増えて帰ってきてるとは思います。

**教育創生監 宇野 勇気**

昨年度は全員初参加の小学生だったんですが、今年度は、2割ぐらいがリピーターで参加していただいて、やっぱりリピートして来てくださる子どもたちは、何か去年がもちろん楽しかったってのはあるんですけど、小グループの中でもリーダーシップをとって、引っ張っていってるのが昨年も今年も私参加してて大きなやっぱりこう経験している小学生はそのグループをまとめる役割っていうのになってたかなというふうに思います。

**委員 山本 亜由美**

去年までは中学生は別のイベントがあったが、今年は一切やらないのですか。

**教育創生監 宇野 勇気**

昨年度までを2年間行っていた、慶應大学による宿泊型の表現教育のプログラムがあったんですが、こちらに関しては今年度行っていない理由としては幾つか理由はあるんですが、一番大きなものは、美祢市内の中学生の参加率が極めて低かった。

20名ぐらいの定員に対して2年連続で5名以下という状況だったので、なかなか実施継続が難しいという判断で今年度は行っておりません。

2日目の夜に関しては、このシェルターワークといって、ビニールシート2枚で、屋根と床でテントを簡易的なテントをつくって、野宿、ビバークというんですけれど、旅行村内の敷地で泊まるという体験をします。

そのためにどのようにロープを使ってテントをつくっていくのかっていうワークも行います。

すみません。時間の都合で一旦ここで切らせていただきます。

来年度以降の継続に関しては、今後局内でしっかりと協議をしていきたいというふうに思っております。

ありがとうございました。

## **教育長 南 順子**

続いてこの流れで美祢山梨のキャンプ事業について入らせていただきます。

## **生涯学習スポーツ推進課 地域活動推進班長 野尻 登志枝**

それでは引き続き令和6年度美祢山梨こども交流事業について御説明いたします。

日程ですが、8月4日日曜日から8月7日水曜日の3泊4日で実施をしております。

参加者の内訳ですが、美祢市小学生の参加者が25名です。

ジュニアリーダーが8名、研修部3名、実行委員が3名、養護教諭が1名で事務局が2名、計42名で山梨に向かいました。

申込み状況ですが、25名の定員に対して42名の応募がありました。

抽選を行ってこの25名を決定したところなのですが、当日、みんな病気もすることなく25名全員、参加をしております。

1日目ですが、7時30分に、美祢市民会館のロビーで出発式を行いました。

8月4日なのですが、八ヶ岳少年自然の家を集まって、これは、オリエンテーションを受けている様子、また、夕食をとってる様子です。

2日目、美祢市にとって2日目ですが、この美祢山梨こども交流事業の1日目になります。

開会行事を、夢わーく山梨の施設で行いました。

山梨の高木市長をお迎えし、島崎教育長、美祢市では南教育長、両市とも各実行委員長として出席をいたしております。

開会行事が終わりましたら、早速、加納岩統一共選所という、桃の出荷場の見学をいたしました。

試食もあわせて行って、山口のこどもが食べる桃は、柔らかいものですが、山梨のほうではリンゴのようにかたい触感の桃を食べられている。

その違いにこどもたちもちょっと驚いていたようです。

その後、この交流事業のきっかけとなりました小澤儀明博士の顕彰碑の前で各班に分かれて記念撮影をしております。

次に、2日目ですが、鉄道王と称され日本の近代化に影響を与えた初代根津嘉一郎の実家根津家の邸宅を訪問しました。ここでは、班に分かれて、邸内で、クイズに挑戦するなどして楽しく見学をしている様子です。

下のほうの写真ですが、夜、各市のふるさと紹介を行いました。

それぞれテーマによって特産物とかですね、そういったことに分かれて班に、

分かれて各紹介をいたしております。

3日目ですが、晴れの場合はスコアオリエンテーリングをする予定だったんですが、当日、朝からの雨でクラフトづくりに変更になっております。

焼き杉のキーホルダーを製作し、思い出の品として持ち帰っております。

またその後、会場をちょっと移しまして、山梨市の郷土料理であるほうとうの麺を各班でつくりました。

その後、地域の団体の方が、その麺を使って料理をしてくださり、ほうとうをみんなで頂きました。

3日目の夕方からみんなでレクリレーションを行っております。

見ていただくと、美祢市側が赤い帽子をかぶっております。

山梨市のこどもたちは、緑の帽子をかぶっております。

それぞれの帽子に寄せ書き、また、各市が準備しました名刺をつかってですね、それぞれ連絡先を交換とか、交流をいたしました。

最終日ですが、午前中それぞれ美祢市側、山梨市側に分かれてレクリレーションをそれぞれ行いました。

その後、お別れ式をして、お別れをしたんですが、こどもたちは大変寂しかったみたいですね、割と涙を流す子が多く、山梨側もお別れをした後も、泣いてる子も多かったというふうに聞いております。

8月7日、夜8時半にお迎えの方の保護者の方が大勢、出迎えていただきまして、帰着式を行いました。

4日間を通してなんですが、小澤博士を縁としました美祢市、山梨市のこどもたちが互いに交流をして、絆を深めて出会いのすばらしさとか、郷土を愛する心を育むなど、非常に貴重な経験をすることができました。

また、みんな大きな事故もなく、無事にこの事業を終えることができました。以上で報告を終わります。

## 教育長 南 順子

はい、ありがとうございます。

見とれておりましたが、何か御意見とか御感想がありましたらお願いできたらと思います。

はい、どうぞ。

## 委員 井上 敏雄

私がこども会に携わってた頃から長いことこの事業やってもらってるんで、非常にありがたいんですけども、要のジュニアリーダーの活躍がすごく大きいんですよね。

ジュニアリーダーは強制じゃなくて任意っていうかそうなってくれる中高生とかがいるからこそ成り立つものであって、そのこども会の継続とこどもの数がどんどん減ってますから、その中に含めたこども会の今後でも発展してもら

いながら、この事業を継続してもらえたらありがたいかなと思ってます。  
以上です。

### **教育長 南 順子**

はい、ありがとうございます。

本当にジュニアリーダーの活躍、またその次、研修部という形で残ってくれておりますが、非常によく頑張ってくれたと思います。

ほかに何かお気づき等がありましたら感想をお願いできたらと思います。

よろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

続きましてふるさと歴史講座についてお願いいたします。

### **生涯学習スポーツ推進課長 野村 一守**

はい、御手元に、令和6年度美祢市ふるさと歴史講座を開催しますという、1枚物のチラシがあるかと思います。

右下に、カラー刷りの写真が写ってるものでございます。

今年度も、美祢市ふるさと歴史講座の開催を予定をしております。

9月14日、美祢市民会館で第1回目を行いまして、今年度全7回の実施を予定をしております。

2月15日と2月22日、こちらにつきましては新しい総合支所で予定をしております。

これは予定どおり総合支所が完成すれば、この日程ということになっておりますが、右のほうに書いてありますように、予定ということにしております。

ちょっと日程等が変更になる可能性があるかもしれませんが、ぜひ新しい庁舎で行いたいということを思っておりますので、日にち等々また変更がございましたら、また市民の方にお知らせをする予定にしております。

それから、3回目の10月12日に、美祢市郷土文化研究会、宮崎義敬先生なんですけれど、この宮崎さんも昨年も講師として歴史講座していただいたんですが、この度、今年でもう最後ということでお話を聞いております。

宮崎先生にはいろんなお話をさせていただきまして、美祢市の文化等々を今までお伝え頂いたんですが、このたび最後ということで大変寂しく思っておりますけれど、皆様ぜひお聞き頂ければというふうに思っております。

ふるさと歴史講座については以上でございます。

### **教育長 南 順子**

はい、ありがとうございます。

何か御質問等ありましたらお願いできたらと思います。

よろしいでしょうか。

それでは続きまして文化財保護課、お願いいたします。

神田課長。

### **文化財保護課長 神田 高宏**

はい、文化財保護課からは国史跡長登銅山跡調査及び整備委員会の開催について御報告いたします。

8月30日長登銅山文化交流館で、長登銅山跡調査及び整備委員会を開催いたします。

委員会では、令和5年度の事業報告、令和6年度の事業の進捗状況などを報告いたしまして、今後の長登銅山跡の整備の方向性を決める、保存活用計画の作成について協議を行うこととしております。

長登銅山跡は平成24年に作成いたしました長登銅山跡保存管理計画に基づき調査整備を行ってききましたが、その後の調査で新たに判明した長登銅山跡の価値も追加して、守るべき本質的価値を明らかにして整備の方向性を示すこととしております。

保存活用計画を作成いたしますと、整備事業が国庫補助対象事業になりやすいというメリットがございます。

今週末、8月30日に開催を予定しておりますが、天候次第で開催は、延期または書面ということになるかと考えております。

この後、課内等でも協議をしたいと思っております。

文化財保護課からは以上です。

### **教育長 南 順子**

何か御質問等がありましたらお願いいたします。

それでは、世界ジオパーク推進課、お願いいたします。

神田課長。

### **世界ジオパーク推進課長 神田 高宏**

はい、世界ジオパーク推進課からは、2点御報告いたします。

一つ目が、アジア太平洋ジオパークネットワークシンポジウムへの参加についてでございます。

9月10日から9月16日にベトナムのノンヌオック・カオバンユネスコ世界ジオパークでアジア太平洋ジオパークネットワークシンポジウム2024が開催されます。

ノンヌオック・カオバンユネスコ世界ジオパークは、昨年度、協定を締結いたしました、ドンヴァンカルスト台地ユネスコ世界ジオパークに隣接するジオパークで、カルスト地形、少数民族、有形無形の文化遺産などが特徴のジオパークとなっております。

大会のテーマは、ジオパークでの地域住民、先住民と持続可能な開発となっております。

M i n e 秋吉台ジオパークからは篠田市長、千々松教育委員会事務局長、世界ジオパーク推進課職員が参加いたしました。それぞれ英語で口頭発表を行い、M i n e 秋吉台ジオパークの活動を紹介し、意見交換をするるとともに、ユネスコ世界ジオパーク関係者との情報交換を行うことといたしております。

2点目ですが、新国際交流員の紹介でございます。

資料の一番下になります、1枚紙でチングのプロフィールというのがございます。

今月8月5日から、ジオパークの新たな国際交流員として、チング・シェクさんが加わりました。

シェクさんは、イギリス出身で、以前、奄美大島でALTとして働いていたこともあります。

その後、もっと日本語を勉強したいということで、ハワイ大学で日本語を勉強されております。

ジオパーク推進課では、申請書等の翻訳業務や、海外からの視察対応など、英語を生かした業務を中心に行っていただいております。

しかし、まずはM i n e 秋吉台ジオパークについて、しっかりと知っていただきたいと思っております。

任期は1年ですが、最長5年間期間を延長することができることとなっております。

世界ジオパーク推進課からは以上です。

## 教育長 南 順子

それでは今の報告につきまして何か御質問等がありましたらお願いいたします。

よろしゅうございますでしょうか。

## 7 教育委員からの提案及び意見

### 教育長 南 順子

はい、それでは大変時間を延ばしましたが、教育委員の皆様方から、全体を通じて提案とか御意見がありましたらお願いいたします。

よろしゅうございますでしょうか。

今日いろいろ重い事案もございましたけれど、全体を通じて、ぜひということがございましたらお願いできたらと思います。

それではないようでしたら事務局のほうにお返しいたします。

よろしく申し上げます。

## 8 次回の教育委員会会議の開催予定

事務局長 千々松 雅幸

9月の定例会議につきましては9月30日月曜日13時30分から、この301号会議室で開催したいというふうに思いますが、御都合のほうはいかがでございましょうか。

**<全員了承>**

**閉会**

**事務局長 千々松 雅幸**

それでは、今後の予定につきましては記載のとおりでございます。

それでは、以上をもちまして、8月の定例教育委員会会議を終わりたいと思います。

長時間にわたり大変お疲れでございました。

ありがとうございました。

**(午後3時30分終了)**

令和 年 月 日

教育長

委員

委員

会議録作成